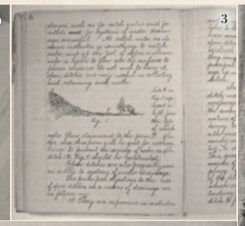
温故知新 北海道大学

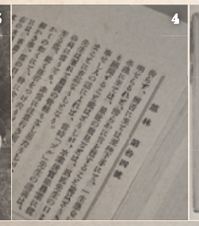
挑戦の140年

SCENE-2

1876-1888

「実学」





1. ウィリアム・ペン・ブルックス（1879年 附属図書館蔵）
2. 札幌農学校校舎（1881年 附属図書館蔵）
3. ブルックス「農学」講義を記録した新渡戸稲造のノート（1878年 大学文書館蔵）
4. 新渡戸稲造の回想を掲載した校友会誌『蕙林』（大学文書館蔵）
5. 札幌農学校の農業実習（1890年頃 附属図書館蔵）
6. 帰国を前にしたブルックス（前列左から3人目）と第10期生（1888年 附属図書館蔵）
7. ブルックスの提案で開催された農業仮博覧会（1878年 附属図書館蔵）
8. 札幌のタマネギ畑の収穫風景（1910年代 附属図書館蔵）
9. 内国勧業博覧会へ出品する校園産タマネギのリスト（1880年 大学文書館蔵）
10. 札幌村郷土記念館にあるタマネギの碑

農学をやり、農場経営もやり、作物栽培もやる

北海道大学は基本理念のひとつに「実学の重視」を掲げている。「実学」という旗印の端緒は、前身校である札幌農学校開校時にまで遡ることができる。

そもそも札幌農学校は、農業によって北海道を開拓するために、専門的な知識と技術を習得した人材を養成するという、同時期の他の高等教育機関に比すると極めて具体的な目的を持って出発した。教頭に着任したW・S・クラークは、生徒に実習を課して農業を実地に体得させる必要を説き、そのための校園（農場）設置を求めた。「農学をやって実地に農場の経営もやり、作物の栽培もやる」（第一期生 佐藤昌介）という、実学を取り込んだ、当時としては一風変わったカリキュラムであった。

校園設置に際し、校園管理と農業実習の担当者としてクラークが推薦したのは、マサチューセッツ農科大学での教え子、農家出身のW・P・ブルックス（一八五一～一九三九年）であった。ブルックスは農学教師として一八七七年二月から一八八八年十月まで在任した、札幌農学校の実学を担った人物である。

ブルックスが担った「実学」

ブルックスの講義と実習指導を受けた札幌農学校第二期生である新渡戸稲造は、次のように回想している。

―「ブル」先生は、当時、ご丁寧にも果樹を運搬するのに用いる縄の直径を出題されたことがあった。その他、農具を使用する時の指の捻り具合、節の曲げ具合などに至るまで、余すところなく説明されたのには、生徒一同が呆気にとられ、「百姓になるのはこんなにも難しいことなのか」とお互いに言い合った。

卒業後、農業の現場に従事した人の話によると、当時の先生の講義は、実に有益であると言う。

しかし、ブルックスの実学で効果抜群であったのは、労働と賃金の経済学においてであった。ブルックスは、生徒に勤労と金銭節用の習慣を醸成することを目的に、週六時間の農業実習の賃金を時給五銭の割合で、月末に支給することとした。生徒の多くが士族出身であったため、「金銭を支払われるなど賤しいことだ」と反発し、生徒間で金銭を受け取るかどうか議論にさえなった。しかし、月末に一円以上の金銭を受け取ると、「これが額に汗した賃金だ」、「十回は菓子屋へ行ける」など、誰一人、賃金の貴賤を論じる生徒はいなくなった。数ヵ月後には、課業外にも従事したいと申し出る生徒まで出たと言う。

「卒業後実地農業に従事せし人の話によれば、当時「ブル」先生の講義は、まことに有益なりしとなり。」

タマネギの生産

校園経営においては、ブルックスはタマネギが北海道の風土に適した農産物であることを見出だし、博覧会などに出品し、その栽培方法などを宣伝した。一八八三年には、札幌郡札幌村（現在の札幌市東区）に入植した武井総蔵ら近隣の農家に直接、タマネギ栽培の指導を行った。武井は後にタマネギ生産に成功し、現在も札幌市東区丘珠から北区篠路にかけた一帯のタマネギ畑でその事績に臨むことができる。

さらに、ブルックスはタマネギの販路を求めて、横浜・東京への出荷も試みた。一八八八年、ブルックスは、北海道で最も重要な農産物としてトウモロコシとともにタマネギをあげ、栽培を開始して十年弱にして広範に栽培されるようになり、地方や北海道外への移出品となっていると校長に報告している。ブルックスは、北海道の代表的農産物、タマネギの生みの親でもあった。

「実学」という旗印

大学は研究・学問を通じ、地域や社会に対して、どのような豊かさを、どのように実現し得るのか。そして、それをどのような形で学生たちに示し、また学生たちが学ぶのか。ブルックスの篤実な仕事は、北海道大学が高く掲げる実学という旗印が、大学にとって不易の課題であることを浮き彫りにしている。

Hokkaido University HISTORY 1876-1888

1876年 9月	クラークの建言により、札幌農学校に校園（農場）を設置
1877年 2月	ブルックスが札幌農学校に着任
4月	ブルックスの提案により、農業実習に対し賃金を支払う
10月	ブルックスがタマネギ2種を輸入、校園で栽培
1878年 4月	ブルックスが校園収穫の農産物種子を近隣農家へ分配することを提案
8月	ブルックスが校園輸入のショートホーン種牛を農家へ無料交接することを提案
10月	ブルックスの提案により、開拓使が農業仮博覧会を開催
1879年 10月	第2回農業仮博覧会に校園からタマネギなどを出品
1880年 8月	ブルックスが教頭心得に就任
10月	校園産タマネギを東京の市場へ出荷
1883年 5月頃	ブルックスが札幌村農民の武井総蔵にタマネギ栽培を指導
1888年 2月	ブルックスが、タマネギは北海道の気候・風土に合うと報告
10月	ブルックス離任

大学文書館 だいがくぶんしょかん Hokkaido University Archives

北海道大学に関する歴史的な資料を収集・整理・保存して利用に供するとともに、北海道大学史に関する調査・研究を行っている。